

第2学年2組国語科学習指導案

指導者 木村 香織

1 日 時 令和4年6月10日(金) 10:15~11:05

2 単 元 名 「落葉松」(北原白秋)

3 学 習 空 間 2年2組教室

4 単元(題材)について

(1) 本教材「落葉松」は日本の詩歌に受け継がれてきた五音・七音のリズムを生かしながらも西洋詩の影響を受けて生まれた文語定型詩であり、古典と現代とを結ぶ近代文学として位置づけられている。五音+七音を一つの単位として繰り返す五七調のリズムからなるとともに、反復や対句が頻繁に用いられていることで、リズム感が強められている。また、文語ゆえに生徒には意味の捉えにくい箇所もあると思われる反面、格調高い響きやリズムの心地よさを感じることができる作品である。

「落葉松」では、一人、からまつの林に行く「われ」の心情と目に映る情景とを順に描きながら、「われ」の静かで寂寞とした心境が示されていく。全八連で構成されており、一~四連、五~八連の二部構成と捉えることができる。また、八連のみが他と異なり、一行目に「からまつの林」が書かれず、世の無常を趣深く思う「われ」の思いと、林をわたるかすかな風の音が描かれる。これらの言葉一つ一つや、表現技法の効果に着目することで、描かれている情景を五感で感じたり、「われ」の心情の変化に気づいたりすることができる題材であると考えられる。

そこで、本単元では、構成を捉え、描かれている情景や「われ」の心情の変化を読み取っていく。詩の言葉一つ一つや、表現技法の効果について考えることで、詩全体を理解するとともに、すべてがはっきり書かれていないため、様々な解釈が可能であることに生徒が気づくことをめざしたい。また、異質とも思える八連の存在について考えることで、作者がこの詩に込めた思いやその表現方法の工夫についても理解を深め、生徒一人一人が「読み手」として解釈を深めていくことができると考える。

(2) 本学級の生徒は男子20名、女子15名の合計35名である。「詩」について「読むことや作ることが好き」と答えた生徒は15名(42.8%)だった。逆に「詩」について「読むことや作ることが好きではない」と答えた生徒は20名(57.2%)で、その理由としては、「分かりにくいや難しい」というものがほとんどだった。また、国語の授業以外で「詩」を読む機会があるかを尋ねたところ、「読む」と答えた生徒は2名(5.7%)で、ほとんどの生徒にとって、「詩」は身近なものではなく、日常的に触れる機会が少ないということが分かった。

「落葉松」について、初読後の感想では「難しい・分かりにくい」とほとんどの生徒が回答した。「難しい・分かりにくい」と感じた理由は「文語が分かりにくい」「言葉が難しい」「書かれていない情報が多く分かりにくい」というものだった。文語や言葉の難しさについては、辞書を用いたり、教師から説明したりすることで理解することができる。しかし、今まで詩に込められた作者の思いやメッセージを読み取ることを中心に学習してきた生徒にとって、「落葉松」は情景描写が多く、作者の思いやメッセージを読み取りにくい。そのため、上記のような感想が出たのではないかと考える。以上より、「落葉松」に対する生徒の「当たり前」を「落葉松は情景描写が多く、分かりにくい詩」と設定した。

(3) 本単元(題材)を指導する(個の「ものがたり」を深める)にあたって、次の点に留意したい。

- ・ 語り合いの前段階として、自分の考えを文章表現としてまとめる時間を確実にもつ。また、考えをまとめる際には必ず詩の言葉を根拠とし、理由とともに記述させる。
- ・ ペア、班、全体と、いろいろな形態で、自分の解釈を語る場面を毎回設定する。
- ・ 単元を通しての学びや本時の学びを意識させるために、思考ツールを用いたり、毎時間や単元の最後の振り返りに視点を設けたりする。

5 本単元の目標

(1) 本単元の「ものがたりの授業」構想図

『ものがたりの授業』

★授業者のねがい（授業を通して生徒に期待する成長や変容）
 情景描写が心象を表現していることに気づく

●題材（「落葉松」）に対する「ものがたり」の変容

（学習前）

「落葉松」は説明が少ないし、情景や心情が分かりにくい詩だ。情景描写が多いけど、どんな効果があるのかな？

探究的な学び
 他者と語り合う

（学習後）

「落葉松」は説明が少ないから自由に想像して読むことができる。情景描写には見たものだけでなく、心象を表現するものもあってより想像が膨らむ。

《（授業者が考えた）単元学習後の「振り返り」例》 *「自己に引きつけた語り」部分
 「落葉松」を初めて読んだときは、昔の言葉遣いでとても読みにくく、内容がよく理解できなかった。何度か読むうちにつまらずに読めるようになり、「からまつ」が何度も繰り返されていたり、五七調で書いていたりすることでリズムを作っているのかなと思うようになった。情景や心情はみんなで確認するとイメージすることができた。からまつの林を理由もなくひたすら歩いていると、ふと近くに人の気配を感じたり、風で揺れる木々や鳥の鳴き声が聞こえたりして、少しずつ作者の気持ちが前向きになっていったのではないかと思った。私は、この学習前は「情景描写」はただ見たものを書いているだけで、そこに心象は表現されていないと思っていた。でも、今回の学習を通して「山川に山がはの音 からまつに からまつのかぜ」のように情景描写でも作者の思いが反映されているものがあることが分かった。直接思っていることを書くよりも、情景描写を通して心象を書くことで、作者の目線を体験したり、五感で感じたりすることができて面白いと感じた。他の詩の作品を読むときにも「情景描写」に注目して読みたい。

(2) 本単元で育成する資質・能力

<p>知識 技能</p>	<p>・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。</p>	<p>・詩の文体や形式、五七調のリズムなどがもつ格調の高さや言葉の変化などを感じながら、音読することができる。 ・詩の言葉やさまざまな表現技法などを理解し、その特色を生かして、情景や心情を捉えるとともに、自分なりに解釈することができる。</p>
<p>思考 判断 表現 等 力 力 力</p>	<p>・論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p>	<p>・詩の言葉や表現技法を手がかりに、情景や心情について、自分の体験と結びつけて考えたり、考えたことを文章に書いたりすることができる。 ・詩の表現、自分の体験、自分の解釈をもとに、筋立てなどを工夫しながら、自分の考えを他者に語るすることができる。</p>

<p>学びに向かう力 人間性 等</p>	<p>・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。</p>	<p>「落葉松」の学習のなかで意欲的に作品や他者とかかわり、学ぶことを通して、 ○詩の構成○リズム○表現の工夫 などに対する深い理解を通して言葉がもつ価値を認識するとともに、自分の考えや思いを伝えようとしている。</p>
------------------------------	--	--

(3) 単元構成 (全6時間)

時間	学習課題 (中心の問い) と◆学習内容	生徒の思考・反応・振り返り
1	<p>◆「落葉松」の構成を捉え、疑問に思ったことから問いを作る。 (学習課題) どのような構成か?</p> <p>「落葉松」という詩を学習します。全部で八連構成です。一連と八連はこれです。では、間の連はどの順番で並んでいると思いますか?</p> <p>★①一連と八連のみが書かれた用紙と、二～七連をバラバラにしたカードを各班に渡す。</p> <p>各連の1行目に注目してみると考えやすいかもしれませんね。</p> <p>・並び替えができた班に声かけを行う。その際、「なぜそう考えたのか」を必ず問う。</p> <p>この詩は、一～四連、五～八連で構成が考えられていると言われています。これをヒントにすると、二連と五連、どっちが分かったら完成できそうですか?</p> <p>五連は、これです。1行目が「からまつの林を過ぎて」で同じですね。これはヒントになりますね。もう少し考えみましょう。</p> <p>・正解を出すことが目的ではなく、詩の構成や作者の意図に気づかせることをねらう。</p> <p>難しい言葉が多かったですが、しっかり考えられていましたね。では、実際に「落葉松」を読んでみましょう。</p> <p>・音読を聞く、自分で読むなど、何度か聞き、初読の感想と疑問に思ったことを書かせる。</p>	<p>生徒の思考・反応・振り返り</p> <p>落葉松ってどんな木なのかな？僕も見たことはあるのかな？</p> <p>難しい言葉が多いな～何を手がかりにしようかな。</p> <p>1行目は「からまつの～」になっている！その後の言葉は、「過ぎて」「出でて」など、いくつかのパターンになっているな。</p> <p>前半は説明が多い気がするから、後半の始まる五連が分かると考えやすいかも。</p> <p>「林を出でて」がペアになっているので、二連と六連だと思いました。「浅間嶺～」の反復は説明ではないと思ったので、後半にしました。</p> <p>よく見ると、「霧雨」と「濡れる」が対応しているなと思ったので、三連と七連にしました。</p> <p>ただ見た物を書いただけだと思っていただけ、しっかり構成が考えられていて、物語みたいだな。</p>



「落葉松」を読んで疑問に思ったことはありませんか？班の人と話し合っ
て問いを作ってみましょう。

★②ワークシートを配付し、各班で問いを10こ作るように指示する。生徒の問いから次時の学習課題を設定する。

2
・
3

◆言葉の意味を理解し、「われ」のいた世界を想像して自分なりの解釈をもつ。



前回、みんなから出た疑問です。みんなで語り合っ
てみたいものはありますか？

★③前回の授業で生徒が挙げた問いから学習課題を設定する。

(学習課題)「われ」のいた世界は？



「われ」が見たもの・聞いたものなどを参考にして「落葉松」に描かれてい
る世界を体験してみましょう。

★④各連ごとに「われ」が見たものを確認させ、連ごとにタイトルを付けたり、イメージ画を描いたりするように指示する。

・各班に古語辞典やタブレットを用意して、難しい言葉があった時に調べられるようにしておく。

・季節や時間帯などを断定するよりも、想像することで、詩の情景をしっかりとイメージさせることをねらう。



この詩は、具体的な季節が書かれていないので、読み手がいろいろ想像することができますね。

★⑤「われ」役の生徒を立てて、背景に写真等を置き、実際にからまつの林を歩いている様子を再現し、全員でイメージを共有する。

・語り合ったことを基に自分なりの解釈を持たせる。

4

◆八連について自分の考えをもつ。
(学習課題)なぜ八連は追加されたのか？



実は、「落葉松」はもともと七連構成でした。どの連がなかったと思いますか？

★⑥今の「落葉松」と七連構成の「落葉松」を見比べて、違いを見つける。

・八連が最初に作品として発表された時にはなく、2年後に追加されたことを抑える。

この詩の季節や時間帯はいつなのかな？

「浅間嶺にけぶり立つ見つ」ってどういう意味？どうして繰り返しているのかな？

季節や時間帯を考えるの面白そうだな！

僕は、詩全体が同じ季節ではない気がするな～。1年かけてこの林を歩いた記録とか？夏に旅に来て、「霧雨」のかかる秋が過ぎて、第七連でもう一度夏に戻ってきて、八連につながるのかな。

私は、一人旅に来ていて、毎朝散歩していたんだと思うな。それで、一連目が月曜日で、1週間経って、それを振り返って八連を書いているように感じたな。季節は春の散歩日和って気がするな。

どの季節でも間違っていないと思うし、同じ詩なのにこんなにイメージが違うなんて面白いな。

異質な感じがするから八連かな？

八連はまとめで大事なところだと思うから、二連とかかな？

一～三連までは同じだけど、四連が七連で最後の連になっている。どうして順番を変えたのかな？

八連がない！一番重要だと思っていたので、びっくり！



2年後にわざわざ八連を追加したということは、八連には何かしら作者の思いがあるということではないですか？

では、「落葉松」に込めた作者の思いとは何か、鑑賞文に書いてみましょう。

★⑦鑑賞文を書くことで、自分の考えをもつ時間をしっかり設ける。

・「あはれ」の辞書での意味「①しみじみとした趣。しみじみとわき上がってくる気持ち。②寂しい・悲しい」を掲示して考えを助ける。

・鑑賞文には①詩全体のイメージ、②八連の役割、③八連についての自分の考え、を書くように指示する。

5
(本時)

◆八連の役割や詩全体についての自分の考えをもち、根拠をもって他者に語るができる。

(学習課題) あなたは八連をどう読むか？

・前時に書いた鑑賞文を基に八連の役割等について班で意見交流する。



詩全体の中で、八連ってどんな役割だと思いますか？



まとめということは、作者の思いが入っているということではないですか？どんな思いだと思いますか？

・「世の中」や「あはれ」、「常なけど」などの言葉についてどう解釈しているか、一～七連とどうつながっているかを語り合いの中で問うことで、一～七連と八連のつながりについて意識させる。



「あわれ」と「うれしかりけり」の二行に注目している人が多いですが、最後の「山川に～」と「からまつに～」の二行はどんな思いだと思いますか？

・最後の二行について、自分の解釈をノートに書かせる。それをもとに班で出た意見をホワイトボードに書き、視覚化する。

何かしら作者の思いはあると思うな。そうじゃないとわざわざ追加したりしないと思う。



世の中は寂しいし、無常だけどうれしいってどういうこと？



「あはれ」は①しみじみとした趣がある。②寂しい・悲しい。という意味があるのか～。私は①だと思うな。



一番最後の連だし、まとめとしての役割があると思います。



世の中は①しみじみとした趣がある。移り変わっていく中に喜びを感じられる・・・ことをよしと捉えていると思うな。



僕は「世の中」は人間の世界で、自然と人間の世界を比べていると思うな。人間の世界はあわれだけど、自然の世界はいい。みんな自然を愛そうって思いがあると思う。



じゃあ、「山川に～」と「からまつに～」は例えなんじゃないかな？適材適所！それぞれにふさわしい場所があるってこととだと思ふ。



私は「一瞬の美しさ」に気づいてほしいというメッセージだと思う。移り変わっていくけど、そこに美しさがある。



・「山川」と「山がは」の違いや、「からまつのかぜ」など、作者の工夫に気づき、自分なりの考えをもって詩を読むことができるように語り合う際、教師が問いかける。



最後にもう一度「落葉松」を音読してみましょう。今、「落葉松」について自分が考えていることを書きましょう。

★⑧最後に詩全体を俯瞰的に見て、今までの学習を振り返る時間を確保することで、生徒1人1人が「読み手」としての自分の解釈を持てるようにする。

6

◆単元を振り返る。
単元学習前の「落葉松」についての記述を振り返り、今の自分の思いや考えを振り返りで記述するように促す。

作者の思いは、八連の前の二行にあると思っていたけど、後の二行もただの景色を書いているだけじゃなくて、作者の思いがあるものだったんだ。



「落葉松」だからいろんな解釈が生まれる。同じものを読んでも、それぞれに感じたことが違うから面白い。



はじめは色もなくて、心情の変化もないと思っていたけど、実は人生のようにいいときも悪いときもあるということを伝える詩なんじゃないかと思うようになった！



6 本時の学習指導

(1) 目標

- ・ 第八連の情景描写の効果について、自分の解釈をもち、語ることができる。
- ・ 情景描写に作者の思いがあることに気づく。

(2) 学習指導過程

学習内容及び学習活動	予想される生徒の反応	○教師のかかわり・★しかけ
1 詩を音読する。		
学習課題：あなたは八連をどう読むか？		
2 学習課題について立場を明らかにし、語り合う (四人→全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題について班員に自分の解釈を語ることができる。その際、相手の解釈について問い合ったり、相手の考えをきいて自分の考えを振り返ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 考えをまとめる際、必ず根拠を明確にするようにする。 ★ 本文や前時に書いた鑑賞文を根拠に語り合うように助言する。
<p>T :では、考えを。どうですか？はい、S1さん、どうぞ。</p> <p>S1 :八連は全体のまとめの役割があると思います。一番最後だから、全体を振り返って書かれていると思います。</p> <p>T :なるほど。では、まとめが一番最後にあるということでもいいですか？そうじゃない詩はない？</p> <p>S2 :そうじゃない詩もあると思います。でも、「落葉松」は一～七連まではからまつの林を歩いているイメージだったけど、八連で急に「世の中よ～」って広い世界に視点がいつているので、僕もまとめの役割があると感じました。</p> <p>S1 :S2さんの意見にとっても納得できました。あと、ずっと「さびしかりけり」って言っていたのに、八連に「うれしかりけり」って初めての感情が出ているので、やっぱり一～七連とは別のまとめの役割があると思いました。</p> <p>T :S1さんやS2さんの意見にみなさん納得ですか？じゃあ、八連がまとめの役割をしているなら、何か八連には作者の思いがあるということですかね？</p> <p>S3 :あると思います。特に前の二行に。</p> <p>T :じゃあ、前の二行について考えていきましょう。「世の中」とは？どこのこと？</p> <p>S4 :「世の中」は人間の世界だと思います。今までからまつ林にずっといて、人の気配をあまり感じていなかったけど、その場から離れてみて「世の中」を改めて見たときに、「②寂しい・悲しい」と感じたのではないかと思います。</p> <p>S5 :僕は「世の中」には人間の世界だけでなく、自然も含んだこの世のすべてっという意味があると思います。八連の後の二行に「山川に～」ってあるから、ここだけ人間の世界だと違和感があると思います。</p> <p>S1 :S5さんの意見に納得しました。一～七連を経験しての八連だから、やっぱり人間の世界だけではないと思います。だから私は、「あはれ」は「①しみじみとした趣。しみじみとわき上がってくる気持ち」のほうで読んでいて、寂しいことをプラスに捉えていると思いました。</p> <p>S3 :なるほど。ずっといきなり「世の中」に話題がとんで違和感があったけど、S1さんの意見を聞いてすごく納得できました。</p> <p>S4 :じゃあ、「常なけど」は「常ではないけれど」って意味だから、移り変わっていくことに魅力を感じているということかな？</p> <p>S5 :「世の中は移り変わっていくけど、いいな」って思いを表現したのではないかな？</p> <p>T :八連の前の二行に注目している人が多いですが、最後の二行にはどんな思いが込められていると思いますか？</p>		

学習内容及び学習活動	予想される生徒の反応	○教師のかかわり・★しかけ
<p>3 第八連の最後の二行にはどんな作者の思いがあるか考える。(四人→全体)</p>	<p>・ 第八連の最後の二行について自分の考えを班の中で語ったり、相手の意見に質問したりして考えたことをまとめている。</p>	<p>○ 自分の考えをもつ時間を確保する。また、班で出た意見はホワイトボードに書くことで視覚化し、全体に共有できるようにする。</p>
<p>S 5 : 僕は、最後の二行はそれぞれにはそれぞれの良さがあるということ表現するためではないかと思いました。適材適所のような印象です。</p> <p>S 4 : 私も、S 5さんとほぼ同じですが、最後の二行は一瞬の美しさを大切にしてほしいというメッセージかと思いました。「常なけど」があるので、その時にしか見られない自然を感じてほしいという作者の思いがあると思います。</p> <p>T : 2人が意見を言ってくれました。この二行ってなんか変なところないですか？</p> <p>S 3 : あります。「山川」と「山がは」は何で違うのか。同じものではないのかなって悩みました。</p> <p>S 1 : 私は「山川」は「山に流れる川」で、「山がは」は「山側」なんじゃないかと思いました。</p> <p>T : なるほど。では、「山側」だとしたらどんな音がする？</p> <p>S 2 : 水の流れる音、風が木を揺らす音、かんこ鳥の音、われが歩く足音・・・</p> <p>S 3 : 一～七連で見てきた景色の音がする気がしました。</p> <p>T : 「山側」と解釈すると、一～七連と八連はつながっているようですね。最後の一行についてはどうですか？</p> <p>S 4 : 「からまつに／からまつのかぜ」って、言いたいことは何となく分かるけど、あんまり言わないかも。</p> <p>T : 本来ならなんて言う？十二音にしないでいいならどうですか？</p> <p>S 5 : 「からまつに吹くかぜ」かな。「からまつからのかぜ」でもいけそう。</p> <p>T : 「からまつに／からまつのかぜ」にした意図は何だと思う？</p> <p>S 3 : リズムがいいっていうのはあると思います。一～七連で「からまつ」を反復しているから、八連でも反復したのだと思いました。</p> <p>S 1 : 「からまつに吹くかぜ」とかだと、からまつは受け身な印象だけど、「からまつに／からまつのかぜ」だと主役は「からまつ」だと思いました。かぜも大事だけど、ここでは「からまつにふく」というのが大事だと思うから、あえて言葉を少なくして「からまつのかぜ」にしたのだと思いました。</p> <p>T : 新たな発見がたくさんありましたね。八連の後の二行に作者の思いがあると最初から読んでいた人は少なかったですが、ただ情景を書いたと思っていた二行にも作者の思いと工夫がたくさんありましたね。では、「落葉松」の他の連でも同じ様な工夫ってないかな？</p> <p>S 2 : あります！六連の「浅間嶺に～」の反復は情景を書いているけど、作者の興奮した気持ちも表現されていると思います。だから、反復しているんだと思います。</p>		
<p>4 詩を音読し、「落葉松」を通して作者が何を伝えたかったのか、自分なりの解釈を書き、学びを振り返る。</p>	<p>・ 初読の感想と比較しながら、今の自分は「落葉松」という詩をどのように解釈しているか、自分の言葉で書いている。</p>	<p>★ 改めて全体を見たときに、「落葉松」という詩がどう見えるか、自分なりの解釈を書くように声かけを行う。</p> <p>○ 本時の学びや新たな見方、自分の考えの変化についても記述させる。</p>

7 見取り

- ・ 単元の終末部で書く振り返りにおいて、「落葉松」における情景描写が作品全体に与える効果について、特に第八連の解釈から自分の言葉で語り直すことができているか。
- ・ 授業中に、作品を根拠に語り合うことができているか。もしくは、自分の考えを記述できているか。
- ・ 単元後の振り返りにおいて、「落葉松」の作品に対する「ものがたり」の変容から、情景描写を捉え直す「自己に引きつけた語り」が生まれているか。